

2018年8月8日

駅構内カメラを活用した「転落検知支援システム」の運用開始

～パナソニックの画像解析技術を応用し、人物自動検出によりホーム上での事故軽減を図ります～

東京急行電鉄株式会社

当社は、駅構内カメラを活用し、ホームから線路へ転落する人物などを自動的に検知して通知するシステム（以下、本システム）を構築し、8月8日（水）から田園都市線鷺沼駅上りホームでの運用を開始しました。本システムは、2017年11月から鷺沼駅で実証実験を実施しており、期間中、さまざまな状況で落下物を適切に検知できたことから、今般、鷺沼駅にて正式に運用を開始するものです。

本システムは、パナソニック株式会社（以下、パナソニック）が所有する画像解析技術を鉄道環境に応用し、既設の構内カメラの映像をリアルタイムに解析するものです。ホーム上から転落した人物や、転落に繋がる可能性のある人物などを自動的に検知し、駅務室など、遠隔地に設置された専用の監視端末に検知映像を表示するとともに、パトライトからアラームを発報し、係員へ通知します。従来の転落報知器と違い、何を検知して発報したかを画像で確認できるため、事故の可能性を見取って、早期に対処することができます。

なお、本システムの運用・データ管理は東急電鉄が行い、パナソニックは画像解析技術の提供のみを行います。

東急電鉄では、今後も幅広い画像解析技術を応用し、構内カメラを活用した駅構内の安全性・利便性向上に向けた施策をすすめ、東急線の駅をご利用されるすべてのお客さまにとって安全、安心、快適な東急線をめざしていきます。

本システムの詳細は、別紙のとおりです。

画像から人物を検出し、人物が指定エリア(軌道側)に侵入した場合に通知



転落を検知→通知

(転落検知支援システムの仕組み)

以上

別紙

＜「転落検知支援システム」について＞

□システム運用対象駅

田園都市線鷺沼駅（上り3・4番線）

□運用開始時期 2018年8月8日

□運用時間帯 21時～終電まで

※今後の運用を経て変更になる可能性があります。

□システム概要（検知から通知までの流れ）

本システムは、既設の駅構内カメラの映像をパナソニックが提供する画像解析技術によりリアルタイムに解析し、画像から人物を検出し、その人物が設定したエリアに侵入すると、専用の監視端末に検知映像を表示するとともにパトライトからアラームを発報し、係員へ通知します。

また、映像データ取得から解析、検知、通知の過程まで、外部からアクセスできない環境において行われます。



□今後の予定

鷺沼駅における今後の運用状況を踏まえて検討してまいります。

【参考】2019年度の整備完了を目指したホームドアの設置推進

ホーム上の安全対策として、東横線・田園都市線・大井町線全64駅のホームドア整備を進めています。2018年度には田園都市線の9駅を含めた12駅で運用を開始し、2019年度までの整備完了を目指します。

□ホームドア設置予定駅

※目黒線：全13駅設置済み・池上線、東急多摩川線：全22駅にセンサー付きホーム柵設置済

